

## 「ムギ類黒節病」の種子生産における防除対策

### 1. はじめに

「ムギ類黒節病」は、県内では平成 22 年に初めて発生が確認された病害です。本病は種子で伝染するため種子生産において重要な病害ですが、平成 28 年 8 月以前は登録薬剤がなく、的確な防除が困難でした。

### 2. 「ムギ類黒節病」の症状

症状は病名のように「節が黒くなる」(写真 1) だけではなく、葉の中央に沿った褐色の大型病斑 (オオムギに多い、写真 2)、葉鞘 (茎) の褐変 (写真 3)、分けつようせつの夭折 (写真 4)、穂焼け症状 (写真 5、6) などいろいろな部位にあらわれます。



写真 1  
節の黒褐変 (オオムギ)



写真 2  
葉の中央に沿った褐色の大型病斑 (オオムギ)



写真 3  
葉鞘 (茎) の褐変 (コムギ)



写真 4  
分けつようせつの夭折 (コムギ)



写真 5  
穂焼け症状 (オオムギ)



写真 6  
穂焼け症状 (コムギ)

### 3. 防除対策

病気を起こす原因は細菌です。発生の年次変動は大きく、強い寒波の後に頻繁な降雨・降雪という発生好適条件に遭遇すると多発する傾向にあります。特に、近年は冬場における気温・降水量の変動が大きく、多発が心配されます。本県の麦類種子生産は東日本有数の規模であり、本病に汚染されていない健全な種子の生産技術開発は喫緊の課題です。そこで、農業技術研究センターでは、平成 25～28 年に本病に対する各種試験を実施し、麦類優良種子生産を支援する体制を以下のとおりまとめました。

(1) **ハウス栽培による原々種の汚染防止**：ハウスでの雨よけ栽培により、種子保菌粒率が大幅に低減することを確認しました。この栽培技術を活用し、種子生産のもと種になる「原々種」を生産します。ハウス栽培では、①播種時期を 12～1 月に遅らせること、②うどんこ病・アブラムシ類の発生に留意すること、③灌水チューブで適宜株元灌水することがポイントです。

(2) **薬剤防除体系**：金属銀水和剤による種子消毒と、銅水和剤の生育期散布を組み合わせた体系防除が有効です。金属銀水和剤、銅水和剤とも本病に対して農薬登録が適用拡大され、現地での使用が可能となりました（ただし、銅水和剤の小麦への散布は採種用に限る）。

以上の (1)、(2) を組み合わせて麦類優良種子の安定生産をはかります。

#### 【問い合わせ先】

農業技術研究センター生産環境・安全管理研究担当

電話：048-536-0311（代表） FAX：048-536-0315（代表）

<http://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/b0909/index.html>